

令和7年度 阪南6区ポンドにおけるアマモ養成活動の概要

CIFER・コアでは、令和4年度から阪南2区の人工干潟周辺海底において「播種シート方式」および「中間育成方式」による養成実験を実施し、発芽を確認しました。しかし、株の越年には至らず、課題の解明を進めています。

なお、阪南2区では埋め立て工事が進展し、濁りの影響で実験継続が困難になってきたことから、令和7年度は阪南2区よりも良好な環境が見込まれる阪南6区へ実験場所を移し、多年生化を視野に入れて調査・検証を行いました。



阪南6区上空写真
赤丸は設置場所2地点(A・B)

播種シート方式

令和7年11月（播種作業シート設置）

90cm四方の播種シート(ヤシマット)にアマモの種を播き、不織布と砂で覆ったものを、水深2.5～3mの海底2地点(A・B)に設置した。また、沖側に、これを保護するための麻製土嚢を設置した。

・種子の数：1600粒



中間育成方式

令和8年3月（アマモ育成ポット移植）

中間育成方式では、パルプ材製のポットに種子を捲き、陸上で発芽・育苗したものを、翌年3月にポットごと2地点(A・B)へ移植した。

・種子の数：1000粒

・ポット数：A 地点/44ポット、B 地点/40ポット



阪南6区はかつて閉鎖性の水域でしたが、現在は護岸の石積みが一部撤去されて通水する状態となっています。このため、上記それぞれの方式について、開口部に近い A 地点と水域の奥まった場所にある B 地点の2地点について調査を行いました。

<実験結果>

	播種シート方式（発芽数）		中間育成方式（発芽ポット数）	
	A 地点	B 地点	A 地点	B 地点
R8.1.31	1株	0 株		
R8.2.22	1株	4株		
R8.3.22	1株	5株	44個	40個
R8.5.24	※8株	15株	32個	23個
R8.6.21	8株	15株	32個	23個



※1株から花穂の種子が確認された。

<観察記録>

【播種シート方式】



【2月】葉長は7cm程度



【5月】花穂の種子(葉長15cm)



【6月】花穂に食害の痕跡が見られた

【中間育成方式】



【3月】移植後のアマモポット(葉長3cm)



【5月】葉長は15cm～20 cmまで成長



【6月】葉の枚数増加が見られた

<まとめ>

アマモの繁茂期にあたる5月・6月の調査で、以下のような結果となりました。

◇播種シート方式： A 地点 8 株、B 地点 15 株（計 23 株）

◇中間育成方式： A 地点 32 ポット、B 地点 23 ポット（計 55 ポット）

播種シート方式では、成長した1株において花枝の形成および種子が確認されました。令和8年からは、阪南6区水域が多年生アマモの生育適地であるかについて、今年度育成したアマモ株において地下茎の形成状況を追跡確認するとともに、最適な養成方式を見出すため、引き続き調査を継続したいと考えています。